

カンキツ「不知火」の安定生産のための収量構成

農業研究センター 天草農業研究所

担当者：猪原 健一

研究のねらい

カンキツ「不知火」の露地栽培は、結果期にはいと樹勢低下がみられ、安定生産が懸念されている。そこで、管内における優秀農家の現地実態調査を踏まえ、生産性の高い収量構成について検討した。

研究の成果

1 1果重

樹容積 1m³ 当たり着果数 10~11 果で、商品性の高い 2L (270g) の果実が得られる。

2 樹容積 1m³ 当たり着果数と収量

樹容積 1m³ 当たり着果数 10~11 果、収量 2.7~3kg 程度で収量は多く連年結果する。

3 樹容積

平成 8 年の樹容積は 21.9~26.7m³ で、樹容積は園地条件、樹齢、植栽距離、樹勢等に影響されるが 20~25m³ 程度が生産性は高い。

4 1 樹当たり収量

1 果重 270g、樹容積 1m³ 当たり着果数 10~11 果、樹容積 20~25m³ で、1 樹当たり収量は 54~75kg は可能である。

5 樹冠占有率

平成 8 年の 10a 当たり樹冠占有率は 59.8~64.4% で、樹冠占有率は園地条件、樹齢、植栽距離等に影響されるが、生産性の高い樹冠占有率は 60~70% 必要である。

6 以上のことから、不知火の生産性の高い収量構成は、樹容積 23m³ で、1 果重 270g (2L) 樹容積 1m³ 当たり着果数 11 果、1 樹当たり着果数 253 果、1 樹当たり収量は 68kg、植栽本数 62 本、樹冠占有率 63.2% で、10a 当たり収量 4,216kg は可能である。

普及上の留意点

- 1 樹勢強化のために土壤改良、整枝剪定、施肥等の基本管理を徹底する。
- 2 樹容積 1m³ 当たり 10~11 果を目安に 8 月上旬迄に早期摘果する。

表1 園地条件

農家	接木時期	中間台樹齢年	10a 当たり植栽本数	テラス利用率 %
A	昭和 63	紅甘夏 11	52	91.2
B	平成 1	甘夏 30	55	82.1
C	平成 1	甘夏 26	63	88.7

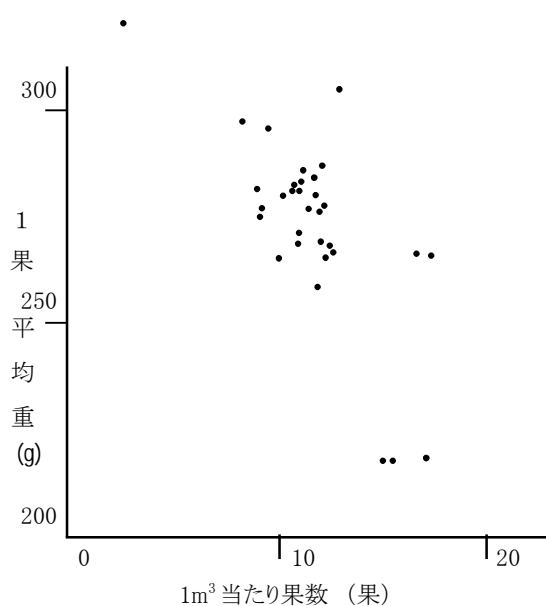
表2 年次別収量の推移

農家	1 樹当たり収量 (kg)				10a 当たり収量 (kg)			
	平成 5 年	平成 6 年	平成 7 年	平成 8 年	平成 5 年	平成 6 年	平成 7 年	平成 8 年
A	50.8	74.6	84.0	73.7	2,642	3,876	4,368	3,832
B	48.4	84.7	70.1	78.2	2,475	4,659	3,856	4,301
C	52.9	72.2	62.4	60.8	3,333	4,549	3,931	3,830

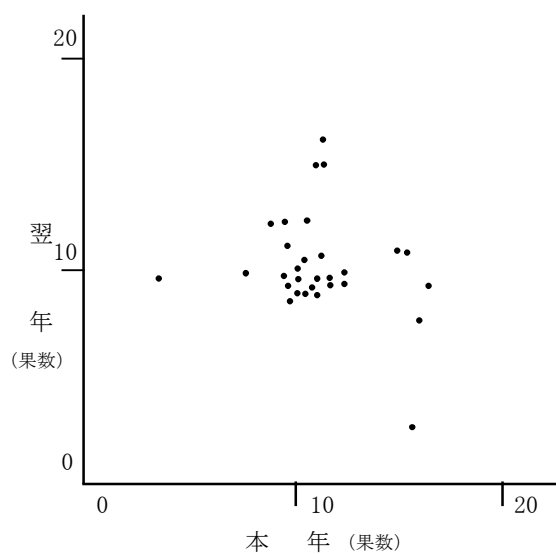
注) 平成 8 年は 3 農家共にカメムシの被害を受けた。

表3 年次別樹容積及び樹冠占有率

農家	樹容積の推移 (m ³)				10a 当たり樹冠占有率の推移 (%)			
	平成 5 年	平成 6 年	平成 7 年	平成 8 年	平成 5 年	平成 6 年	平成 7 年	平成 8 年
A	18.8	23.8	26.2	26.7	27.0	54.6	57.7	59.8
B	24.4	26.4	25.8	25.8	60.5	63.8	67.7	64.4
C	17.6	21.2	21.7	21.9	52.9	59.9	62.3	61.7



第1図 1m³当たり果数と1果平均重



第2図 年次別の1m³当たり果数